

循環型社会の実現に貢献する

Sustainability

CATALOG

 KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号 TEL.03-3542-4166(代)

<https://www.kpp-gr.com/>



輸送マイルージとCO2排出を抑え、
地球温暖化に配慮したライスインキ
を使用しています。



針金・糊が不要な製本方法を
採用し、リサイクルや怪我の危険へ
配慮しています。



KPPグループホールディングス株式会社
KPP GROUP HOLDINGS CO., LTD.

Top message

トップメッセージ



2023年1月
KPPグループホールディングス
代表取締役社長

栗原 正

当社は1924年の創立以来、紙の専門商社として、戦前より一貫してあらゆる分野に、あらゆる用途に、そしてあらゆる地域に紙を販売してきました。高度経済成長期には「紙は文化のバロメーター」とも言われ、紙パルプ市場も日本のGDPの拡大に比例して成長してきました。当時の日本は製造業を中心に世界経済をリードし、日本を一つの手本として発展途上国も経済発展を遂げました。これによってさまざまな地域で経済的に豊かな社会が実現しましたが、その一方で地球環境は静かに劣化が進み、気が付けば、地球温暖化による気候変動や、プラスチック等による海洋汚染が深刻な状態となっていました。

当社は、このような環境問題をグループ全体のマテリアリティとして捉え、KPPグループウェイのミッションを「ペーパーイノベーションで循環型社会の実現に貢献する」としています。このミッションを遂行し、気候変動や海洋プラスチック汚染などに代表される環境問題解決に寄与するため、この度「紙」という素材の可能性を追求

した「GREEN PRODUCTS & SOLUTIONS CATALOG」を刊行いたしました。

このカタログは4つのパートに分かれており、全てを通してご覧いただくことでKPPグループのサステナビリティに関する基本的な考え方や、さまざまなシーンに合わせた環境負荷低減に資する製品やサービスの概要を知ることができます。また、カタログには製品のサンプルキットもついていますので、実物に手を触れ、じっくりと吟味して頂くこともできます。今やサステナビリティ課題に取り組まない企業には未来がないとまで言われております。当社の「GREEN PRODUCTS & SOLUTIONS CATALOG」が皆さまの環境負荷低減に向けた取り組みの一助となればと考えています。

紙は人々の知を育むメディアであるばかりではなく、リサイクルのできる自然にやさしい素材でもあります。当社はこれからも「紙でつなぐ、未来をつくる」をコーポレートメッセージとして、紙の可能性を追求し、環境負荷低減に貢献していきます。



- 1 トップメッセージ
- 2 目次
- 3 KPPグループのサステナビリティ戦略
- 4 総合循環型ビジネスモデル
- 5 Green Products
グリーンビズプロジェクトの紹介、商品分類
- 7 Green Solutions
タウンecom、ecom クローズドリサイクルサービス、
オフィスecom、BMecom
- 9 トピックス
王子ファイバー、アミカテラ
ランパック、SHIFT ON
- 11 海外グループ企業の取り組み
エンバイロンズ、グリーンスターシステム™
- 13 生物多様性について
- 14 リンク紹介
コーポレートサイト、ペーパーモール、SHIFT ON、
YouTubeなどのSNS

KPPグループのサステナビリティ戦略

KPPグループでは、事業活動を通してSDGs(持続可能な開発目標)達成に貢献するため、グループ全体のマテリアリティを特定しました。マテリアリティの特定にあたっては、まず国内外の社会課題、国際的なガイドラインや規格(ISO26000、SDGs、GRI、IIRC等)、ESG評価機関(MSCI、FTSE等)の評価項目などを考慮に入れました。この結果に基づいてSDGsに紐づいたアクションプランを策定し、目標達成に向けた具体的な取り組みを進めていきます。

マテリアリティ特定プロセス

STEP 1 課題の洗い出し

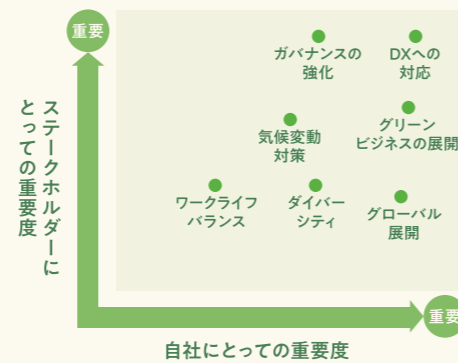
社会課題、国際的なガイドラインや規格、ESG評価機関の評価項目などを考慮し、自社の強みや弱み、機会、脅威などを検討し、一般的な戦略的課題を洗い出しました。

STEP 2 重要度の評価

社内外のステークホルダーに対するヒアリングを通して各ステークホルダーと自社にとってより重要であると考えられる課題を選択しマッピングしました。

STEP 3 議論を通じた妥当性の評価

マッピングしたマテリアリティをグルーピングし、さらに議論を重ねました。こうして特定されたマテリアリティは取締役会での承認を経て、経営戦略へと取り込み、アクションプランを策定し、PDCAを回しています。



KPPグループの環境関連のマテリアリティ

マテリアリティ	重点テーマ	アクション	KPI	関連SDGs
グリーンビジネスの展開	プラスチック汚染問題の解決	日本のグリーンプロダクトやグリーンソリューションに加え、欧州やオセアニアなどグローバルでの成果を目標に取り込む	グリーンビズプロジェクト(国内)としての計画は売上60億円(2025年3月期)	12 持続可能な消費と生産
	リサイクルや廃棄物の削減	国内においては、経営理念にも謳っている循環型ビジネスをさらに推進する	古紙回収量	14 海の豊かさを守ろう
気候変動対策	温暖化防止ソリューションの開発	バイオマス発電所最適化支援システムの開発と流通	国内、および海外での拡販	13 気候変動に具体的な対策を
	CO ₂ 排出量削減	温室効果ガス排出量測定の手法を確定し、まずはグローバルでの測定を開始する 温室効果ガス排出量測定範囲を徐々に広げながらグループ全体での目標を設定する	Scope1・2・3の算定を国内・海外の連結対象へ拡大 CO ₂ の削減目標 2020年より毎年-3.3%を目標にして2050年に実質0を達成	15 陸の豊かさも守ろう

環境負荷を低減し持続可能な成長を実現

総合循環型ビジネスモデル

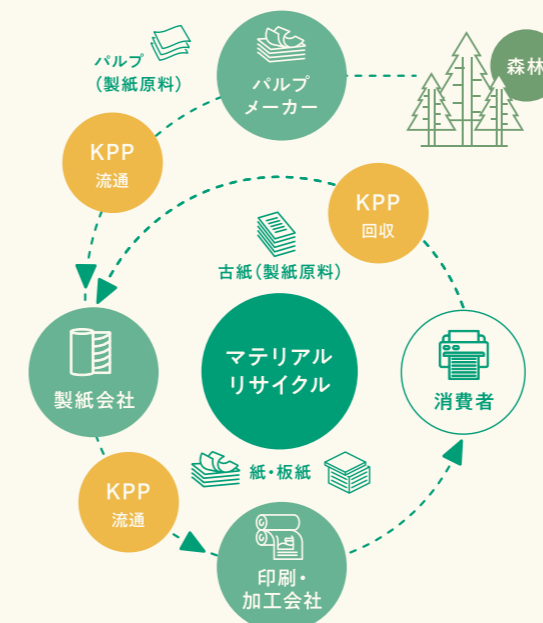
当社は事業そのものがサステナブルな社会の実現に貢献する循環型ビジネスモデルの構築を進めています。古紙原料などを供給するマテリアルリサイクルと、バイオマス発電所運転支援システムによる再生可能エネルギー供給の促進によってサーキュラーエコノミーを推進しています。

当社のビジネスモデルを血液の流れに例えると、森林資源をもとに製造された紙が消費者のもとに届く流れが「動脈」、役割を終えた紙が回収され、古紙原料としてメーカーに納入される流れが「静脈」ということになります。持続可能な社会を実現するためには動脈と静脈の流れを滞らせずに循環させることが重要です。当社はこの循環における動脈と静脈の流れをつかさどる心臓の役割を担っています。

マテリアルリサイクル

循環型ビジネスモデルでサーキュラーエコノミーの実現に貢献

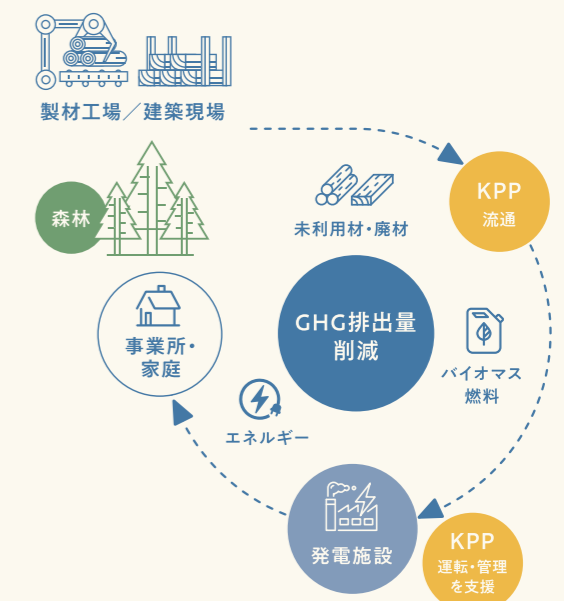
仕入先約1,200社、販売先約2,400社に及ぶグローバルなネットワークを持ち、国内では業界トップクラスの紙販売量と古紙回収量を誇っています。紙販売に際しては、創立以来100年近くに亘り培ってきた紙とその周辺素材に関する知見を活かしてさまざまなソリューションを提案しています。古紙の回収では日本全国に張り巡らされた古紙問屋ネットワークと、「タウンecomо」「オフィスecomо」「ecomо クローズドリサイクルサービス」といった古紙回収ソリューションをユーザーに提供しています。



GHG 排出量削減

バイオマス発電支援事業で温室効果ガス排出量削減に貢献

バイオマス発電は、燃料となる植物が成長過程で大気中のCO₂を吸収することから「カーボンニュートラル」と考えられています。当社はバイオマス発電所に未利用材や廃材を供給するほか、AI・IoT技術を活用して発電所の収益最大化を支援するシステム「BMecomо」を展開しています。森林のエネルギー資源としての活用推進と「BMecomо」事業のさらなる成長と拡大によって、サーキュラーエコノミーと脱炭素社会の実現に貢献します。



Green Products

世界的に大きな問題となっているプラスチックごみによる海洋汚染問題解決のため、各国の政府や企業はさまざまな対策を始めています。日本でも小売業や飲食業を中心に、使い捨てプラスチック製品の使用削減に取り組む企業が増えており、官民合わせた環境負荷低減の動きが加速しています。

このような国内外の動きを受け、当社でも、2019年に若手社員を中心に「Green Biz Project」を社内横断的に立ち上げました。ミーティングにはメーカーやユーザーから講師を招聘するなど活発に意見交換、情報共有を行っています。同プロジェクトは「紙化」、「減プラ」、「バイオマス素材」など多様な観点から、プラスチック代替素材・代替製品の開発・流通に取り組んでおり、これまでもさまざまな成果を上げています。ここでは同プロジェクトから生み出される「Green Products」にどのような種類があるのかをご説明します。

紙化

Converting to paper

これまでプラスチックが使われていた製品を完全に「紙」に置き換える手法を指します。近年では製紙メーカーを中心に研究開発が進んでおり、透過性や透明性などの機能面においてプラスチックと遜色ない素材も出てきています。食品パッケージや日用品・文具用品でも採用事例が増えています。

紙化商品例
紙製クリアホルダー、スナック菓子の外装パッケージ、緩衝材など



減プラ

Reduced plastic

プラスチックの持つバリア性や加工適性などの特性を損なわない程度に、バイオマス素材である紙・パルプを混成させることにより石油由来プラスチックの使用量を削減したものを指します。紙などの素材を混成した際に、透明性や強度を確保することが課題です。

減プラ商品例
フェイスカバー、ドリップコーヒー包装袋、緩衝材など



バイオマス素材

Biomass material

プラスチックが持つさまざまな特性は、他の素材には簡単に切り替えることが困難なケースもあります。少しでも環境負荷を低減するために、バイオマス原料より製造される「バイオマスプラスチック」と、微生物により生分解される「生分解性プラスチック」などの研究開発が進んでいます。

バイオマス素材商品例
レジ袋、食品トレー、ストローなど



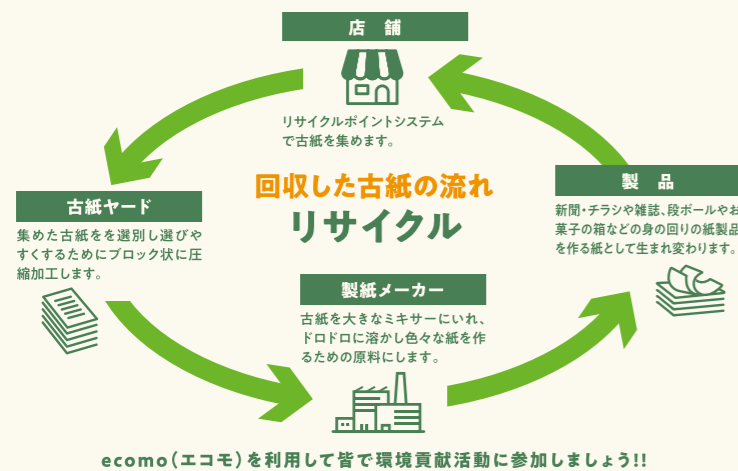
グリーンソリューション

Green Solutions

当社ではプロダクトのみならず、環境負荷低減に向けたソリューションの開発にも積極的に取り組んでいます。その代表例が当社独自のソリューション「ecommoシリーズ」です。ここでは「ecommoシリーズ」のバリエーションをご紹介します。

タウン ecommo Town ecommo

ポイント還元型古紙回収ボックス「タウンecommo」は、家庭から出る紙ごみを回収してリサイクルする仕組みです。古紙回収ボックスをスーパーマーケットやドラッグストアなどの小売店に設置し、買い物に来たお客様に、家庭で発生する古新聞・古雑誌などを持ち込んでいただいています。行政の古紙回収頻度は地域によって異なり、頻度の少ない地域では古紙が家庭にたまりがちになりますが、タウンecommoを利用することで古紙を好きな時に処分できるうえ、重さに応じたポイントをためてお買い物に利用することができます。古紙回収ボックスを設置する小売店にとっては継続的な集客が期待でき、企業イメージの向上に繋がります。



ecommo クローズドリサイクルサービス

ecommo Closed Recycle Service

SDGs(持続可能な開発目標)達成に向けて各企業でさまざまな取り組みが始まっています。当社の開発した「ecommoクローズドリサイクルサービス」では、顧客のビジネス、商品、サービスを理解したうえで、継続性、合理性、実現性のあるリサイクルスキームをご提案し構築します。

【事例】流通過程で発生する使用済みの段ボールを回収し、再資源化までの見える化を実現いたしました。同システムは、各企業の環境負荷低減に向けた動きに対応し、紙以外にも応用編として資材メーカーの廃材や工場用梱包メーカーの材料などを対象に含めるなどその範囲は徐々に広がっています。



URL:<https://ecommo.closedrecycle.jp/>

オフィス ecommo

Office ecommo

オフィスecommoは、オフィスで発生する機密文書を鍵付きのBOXで回収し、古紙原料化する仕組みです。企業内で発生する廃棄物の量を削減、再資源化するだけでなく、多量の機密文書が発生する企業にとって悩みの種である、シュレッダー処理の時間と手間の削減にもつながります。



BMecommo

BMecommo

当社は2018年にバイオマス発電所運転支援システム「BMecommo」の開発に着手し、2021年にはバイオマス発電所でサービスを開始するなど順調に事業を拡大してきました。さらなる事業拡大と効率化等を目的に、インドのITベンダー、Envision社との共同出資により「株式会社BMエコモ」を設立しました。まずは国内発電所を対象に拡販に取り組み、将来的には東南アジアなどバイオマス発電が盛んな地域においても事業を展開します。

URL:<https://bmecommo.com/>



トピックス

01 | 王子ファイバーの「かみのいとOJO+(オージョ)」



当社では、マニラ麻を主原料とする紙糸繊維「かみのいとOJO+(オージョ)」の繊維製品の製造及び加工、販売等を行う王子ファイバー株式会社を子会社いたしました。「かみのいと」は軽量で吸水速乾性、耐水性に優れており、アパレル、インテリア、ベッドリネン等、幅広い分野で活用されています。このほか人工芝も開発しており、実際にフットサル場に導入されています。今後はKPPグループの一員として、環境負荷低減に資する製品の開発・流通に取り組んでいきます。



URL : <http://www.ojifiber.co.jp/>

02 | アミカテラのプラスチック代替素材

当社は、植物由来で非プラスチック製品の原材料販売と製品製造を手掛ける株式会社アミカテラへ出資し、業務提携を行いました。同社は植物系残渣等を使用したプラスチック代替素材「modo-cell®」を製造しています。生分解性を持つ製品や製造技術の活用により、持続可能な循環型社会の実現に向けた取り組みを進めます。



03 | ランパックの紙の緩衝材



隙間埋め



重量物用緩衝



ラッピング

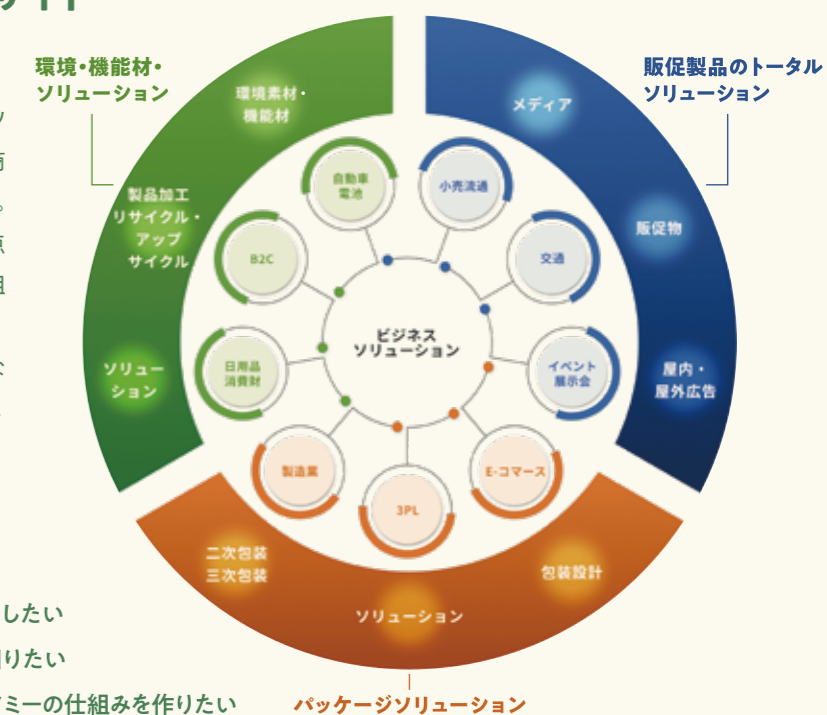
当社は、紙の緩衝材ソリューションを提供するRanpak B.V.(以下、ランパック)と、販売代理店契約を締結しました。ランパックは、緩衝材など紙の保護梱包材の販売や、梱包装置のリースによる提供など、梱包にかかるソリューションを世界50か国で展開する、紙の緩衝材におけるリーディングカンパニーです。緩衝材は、「エアバッグ」や「気泡緩衝材」などのプラスチック製のものが主流ですが、紙製へと切り替えることにより環境負荷が低減されます。また、梱包スピードも大幅にアップすることが期待され、今後、EC業界を中心として紙の緩衝材に対する需要は益々高まっていくと考えています。

04 | ビジネスソリューションサイト「SHIFT ON」

「SHIFT ON」は、国際紙パルプ商事が提供するビジネスソリューションです。長年培ってきた経験とノウハウ、そして商社ならではの幅広い商材とサービスで解決へと導きます。「環境・機能材」「パッケージ」「販売促進」という3つの視点から、お客様や業界の潜在的ニーズを分析し、素材と仕組みで実現可能なソリューションを提供します。お客様の「ありたい未来」に寄り添い、ビジネスの継続的な成長に意識を「シフト」させるための取り組みを提案します。

こんな目的・課題をお持ちではありませんか？

- コストを削減したい
- 環境対応したい
- 相談先を一元化したい
- 働き方改革を実現したい
- 企業価値を向上させたい
- 業務の最適化を図りたい
- 業界の最新情報を入手したい
- サーキュラーエコノミーの仕組みを作りたい



Overseas group companies

海外グループ企業の取り組み

KPPグループでは、国際紙パルプ商事だけでなく、スパイサーズ(オセアニア・東南アジア・インド)やアンタリス(欧州・北南米)も環境負荷低減に資する商品やサービスの開発・流通に積極的に取り組んでいます。ここではKPPグループ全体の循環型社会形成に向けた動きについてご説明します。

スパイサーズ サステナビリティ・カタログ 「エンバイロンズ」

スパイサーズは今年、環境負荷低減に貢献する商品・ソリューションを一挙に掲載したカタログ「エンバイロンズ」をリリースしました。

スパイサーズは、サプライヤーとのパートナーシップを強固にし、顧客の環境配慮へのご要望に対応していくことが成長につながると考えています。「エンバイロンズ」では、森林認証紙などの紙ベースの製品、リサイクル処理に適したポリプロピレン製品、環境負荷の低い非塩化ビニル製品

などを紹介している他、同社の「サステナビリティ宣言」、サステナブルな目標とその実践、サステナブルな製品設計のために考慮すべきヒントなど、さまざまなコンテンツを盛り込んでいます。「エンバイロンズ」はプロダクトデザイナーや加工業者が使用することを想定しています。素材選定、生産工程のほか、製品の販売、使用、廃棄方法までの全てのプロセスを考慮することにより、環境負荷低減に寄与する選択を容易にしています。



URL : <https://www.antalis.com/en/responsibility/eco-responsible-products/green-star-system/>

アンタリス 環境負荷評価システム 「グリーンスターシステム™」

アンタリスはヨーロッパにおける業界のリーディングカンパニーとして、責任ある調達と環境に配慮した製品開発に取り組んでいます。

アンタリスが独自に開発した環境負荷評価システム「グリーンスターシステム™」は、再生原料やバイオマス由来原料の使用量、リサイクルの容易性、REACH規制物質に対する安全性など、世界的に広く認知されている環境配慮基準に基づいて0~5の星をつけて製品とサービスを評価していま

す。このシステムによって、複雑な認証制度を読み解く必要がなくなり、特定の用途に応じた環境パフォーマンスを容易に理解することができるようになります。

また、同システムは、紙・パッケージ・ビジュアルコミュニケーションの3つの事業分野で展開しており、サステナビリティに対する取り組みが注目される中、企業が製品・サービスを選択する際に環境に配慮している姿勢をステークホルダーに伝えることができます。

Biodiversity

生物多様性について

当社のビジネスは森林に由来する資源なくしては成立しません。森林資源を保全すること、森林資源の持続的な生育のために温暖化の影響を軽減することは、当社の持続的な事業成長には必要不可欠な取り組みです。このような考え方にに基づき、当社ではC.W.ニコル・アフンの森財団の活動を支援し続けています。ここでは、同財団との活動についてご説明します。

C.W.ニコル・アフンの森財団支援

当社は2015年より一般社団法人「C.W.ニコル・アフンの森財団」への支援をスタートしました。日本に移り住んだニコルさんは長野県黒姫の荒れ果てた森を購入、30年以上にわたって手入れし続け、生物多様性の豊かな森に蘇らせました。ニコルさんは、2020年4月に79歳でその生涯を終えましたが、ニコルさんが目指したのは100年先の未来をつくることです。生物多様性の豊かな自然を日本中に広めたいというニコルさんの思いを大切に、当社はこれからもC.W.ニコル・アフンの森財団への支援を続け、持続可能な社会の実現に貢献します。



アフンの森・南エリアにおける森林創生活動

2022年2月、アフンの森の南エリアについて、新たに森林創生の支援を開始しました。同エリアはアフンの森財団が健全な森を広げるために少しずつ買い取り、現在約17ヘクタールの広さになった場所です。このエリアを生物多様性にあふれた豊かな森に生まれ変わらせ、将来は巨木(大径木)を中心とした地域本来の森林生態系を取り戻すことを目的に整備をしていきます。

当社では研修の一環として、南エリアの間伐・創生活動に参加し、森の中で生き物たちの姿を目にし、声を聴くことで生物多様性の保全の重要性を再認識し、今後の事業活動を通じ貢献していきたいと考えています。



■:アフンの森(南エリア) ■:アフンの森(北エリア)

KPPグループホールディングス コーポレートサイト

2022年10月、ホールディングス制移行に伴い、ホールディングス側のサイトを新設しました。KPPグループホールディングス株式会社と事業会社のコーポレートサイトを別建てにし、それぞれのサイトにおきましてステークホルダーの皆様により分かりやすく、必要な情報にアクセスできるよう構築しています。



<https://www.kpp-gr.com/>

ソリューション提案サービスサイト 「SHIFT ON」

素材専門商社として培ってきた100年近くのノウハウをもとに、「環境・機能材」「パッケージ」「販売促進」の3つの事業領域で、お客様や業界の潜在的ニーズを分析し、最適な素材や仕組みを活かして、お客様の事業課題を解決する最適なソリューションを提供します。



<https://shifton.kpp-gr.com/>

KPPグループ公式 Twitter

KPPグループの活動や広報発表などをステークホルダーの皆様方にお伝えしています。フォローして頂ければ常に最新情報をお届けできます。



<https://twitter.com/Kppc1924>

1枚から紙を買えるネット通販 「PAPER MALL」

約1,000種類の一般紙、特殊紙及び紙製品を取りそろえており、紙1枚から購入することができます。サンプルや見本帳が無料で注文できるほか、一般紙をご希望のサイズに断裁する加工サービスを行い、お客様の幅広いニーズを満たします。SDGsに取り組みすべての企業の一助となるよう、環境配慮商品「Green Products」シリーズのラインアップを強化しています。



<https://www.kpps.jp/papermall/>

KPPグループ公式 動画サイト

国内外のKPPグループ各社の紹介や広報誌「TSUNAGU」取材動画、ソリューションなどを公開しています。



<https://www.youtube.com/user/kppchp>

KPPグループ公式 Instagram

広報誌「TSUNAGU」創刊50号発刊を記念し開設しました。同誌のPRの他、TSUNAGUギャラリー展示なども随時ご紹介します。



<https://www.instagram.com/kpp.tsunagu/>